トピックス

茨城県におけるセンリョウ炭疽病の発生状況と防除対策

茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所　渡辺（わたなべ）　賢太（けんた）・氏家（うじいえ）　有美（ゆみ）*・村﨑（むらざき）　聡（さとし）**

は　じ　め　に

センリョウ（*Sarcandra glabra* Nakai）は赤い果実と緑の葉のコントラストが美しく，名前が富を象徴する「千両」を連想させるため，正月飾りとして安定した需要がある観賞用の切り枝品目である。陰生植物であるセンリョウは，竹すで囲われた遮光施設に作付けされ，竹すの隙間から雨が入り込む半露地条件で栽培される（図-1）。また，同一株から10年以上切り枝を収穫する半永年性の常緑低木植物である。生育は非常に緩慢で，播種から初収穫まで5年以上要し，株元から発生する若芽が切り枝として収穫できるまで2年を要する。収穫は毎年11月中旬から12月中旬ころに行われ，鑑賞期間となる年始も含めると収穫から最大約50日間は切り枝としての品質維持が求められる。さらに近年，現地では台湾や香港といった東アジア圏に向けた船便輸出にも取り組んでおり，安定した供給体制と品質維持が望まれている。

しかし，茨城県内の産地ではセンリョウ炭疽病の被害が拡大しており，単位面積当たりの収量が減少傾向にある。本稿では，本県におけるセンリョウ炭疽病の発生状況並びにその防除対策について述べる。

I　センリョウ炭疽病の発生生態

1　本県におけるセンリョウ炭疽病の発生状況

本病は葉，茎，実が暗褐色に褐変し，病徴が進展すると枝全体が枯死する（図-2）。そのため，収穫まで時間を要するセンリョウでは経営的な被害が大きい。本病の病原菌としてはまず島根県で *Colletotrichum gloeosporioides*

植物防疫

図-1　茨城県におけるセンリョウ栽培
A：竹す遮光施設内のセンリョウ.
B：竹す遮光施設の外観.

Status and Control of Anthracnose on Senryo（*Sarcandra glabra*）in Ibaraki Prefecture.　By Kenta WATANABE, Yumi UJIIE and Satoshi MURAZAKI

（キーワード：潜在感染，*Colletotrichum* 属菌，耕種的防除，薬剤感受性，総合防除体系）

*現所属：茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター
**現所属：茨城県県南農林事務所経営・普及部門